

3-15. 寺中地区

1. 地区の概要

(1) 位置・人口等

■位置

寺中地区は、益城町の北東部に位置し、東は田原地区、西に平田地区、南に下陳地区に接しています。本地区の南側には県道熊本高森線が通り、地区内部には南北方向に上益城平坦部広域農道（マミコウロード）が通っています。

本地区南側の県道熊本高森線沿道は概ね平坦ですが、北側に向かうにつれて高くなる傾斜地となっています。しかし、今回の熊本地震においても、崩壊している箇所が少なく、比較的地盤の強い地区と言えます。

本地区南側を流れる木山川は、本地区で大きく湾曲しており、大雨時の越流が心配です。



図 寺中地区

■人口等

平成 29 年 3 月末日の住民基本台帳によると、寺中地区の人口は 378 人、世帯数は 146 世帯となっています。

平成 25 年から 29 年までの 5 年間の人口、世帯数の推移をみると、震災前後で人口、世帯数ともに大きな変化は見られないものの、世帯数はやや増加していました。

表 寺中地区の人口推移（平成 25 年～29 年）

	平成 25 年		平成 26 年		平成 27 年		平成 28 年		平成 29 年	
	人口	世帯数	人口	世帯数	人口	世帯数	人口	世帯数	人口	世帯数
寺中	381	144	396	147	385	142	379	143	378	146
(H25 を 100 とする指数)	100	100	104	102	101	99	99	99	99	101

資料：各年 3 月住民基本台帳人口

（２）被害状況

熊本地震後 1 回目の住家の被害認定状況をみると、住家の 16%が「全壊」又は「大規模半壊」となっており、津森校区内の他地区と比較して最も被害が少ない地区の 1 つであることがわかります。

表 津森校区内大字別被災状況（住家）

	住家					
	全壊	大規模半壊	半壊	一部損壊	無被害	計
大字寺中	16	6	41	71	1	135
大字田原	31	12	42	63	1	149
大字小谷	28	30	47	92	2	199
大字杉堂	47	8	20	22	4	101
大字上陳	40	12	25	38	0	115
大字下陳	11	11	26	95	0	143

（３）地区の課題

- ・公共交通及び公益的施設が少なく利便性に課題がある。
- ・県道等の広域的な道路を連絡する町道のほかは、幅員 4 m未満の道路が多い。
- ・本地区には、津森神宮北部や宮坂沿道に土砂災害特別警戒・警戒区域が指定されている。

2. 地区の基本方針

寺中地区は、熊本地震による震災の家屋の被害も比較的少なく、震災後もほぼ一定の人口を維持しています。

津森校区の中でも古い歴史をもつ本地区は、地区の中央に津森神宮があり、地区内に勅使塚やお地藏さんなどの歴史文化資源があります。その資源を活かした祭や、寺中フラワーラインや彼岸花街道などの環境保全の取組みやイベントも行われており、良好なコミュニティが形成された地区です。

一方で、全国的な少子高齢化や空き家問題、農業の従事者・後継者不足などの問題が震災を契機に顕出し、将来にわたって持続可能なまちづくりが求められています。

このため、ハード・ソフトの両面から災害に備えたまちづくりを進め、若い人が住み、子どもたちの笑顔が絶えないまちづくりを進めるとともに、地区住民だけでなく地域の住民が心から安全・安心して住み続けられるまちづくりを目指します。

【まちづくりの目標】

“みんなが集う 伝統とゆとりの里 寺中 ”

3. 避難路・避難地の計画

<避難路>

避難路については、公民館につながる町道寺中線を、避難しやすく、かつ緊急車両の通行などもしやすくなるように整備します。なお、町道寺中線は西側に家屋が建ち並び、拡幅での整備は難しいことも考えられるため、交差点での隅切り、離合箇所の確保をまちづくり協議会と検討していきます。

<避難地>

避難地については、地区の南北からも住民が集まりやすく、木山川の越流の影響を受けない広域農道マミコウロードに面する場所に、災害時の一時避難場所を整備します。

表 避難路・避難地の整備の概要

路線名等	整備内容	拡幅等	整備の内訳			概算 事業費 (千円)
			延長 (m)	幅員 (m)	面積 (m ²)	
町道寺中線	地区公共施設(避難路)	拡幅	80.0	4.0	320.0	17,000
一時避難場所	地区公共施設(避難地)	新設			2375.0	63,375

寺中地区【4 m、交差点での隅切りや離合箇所の確保】

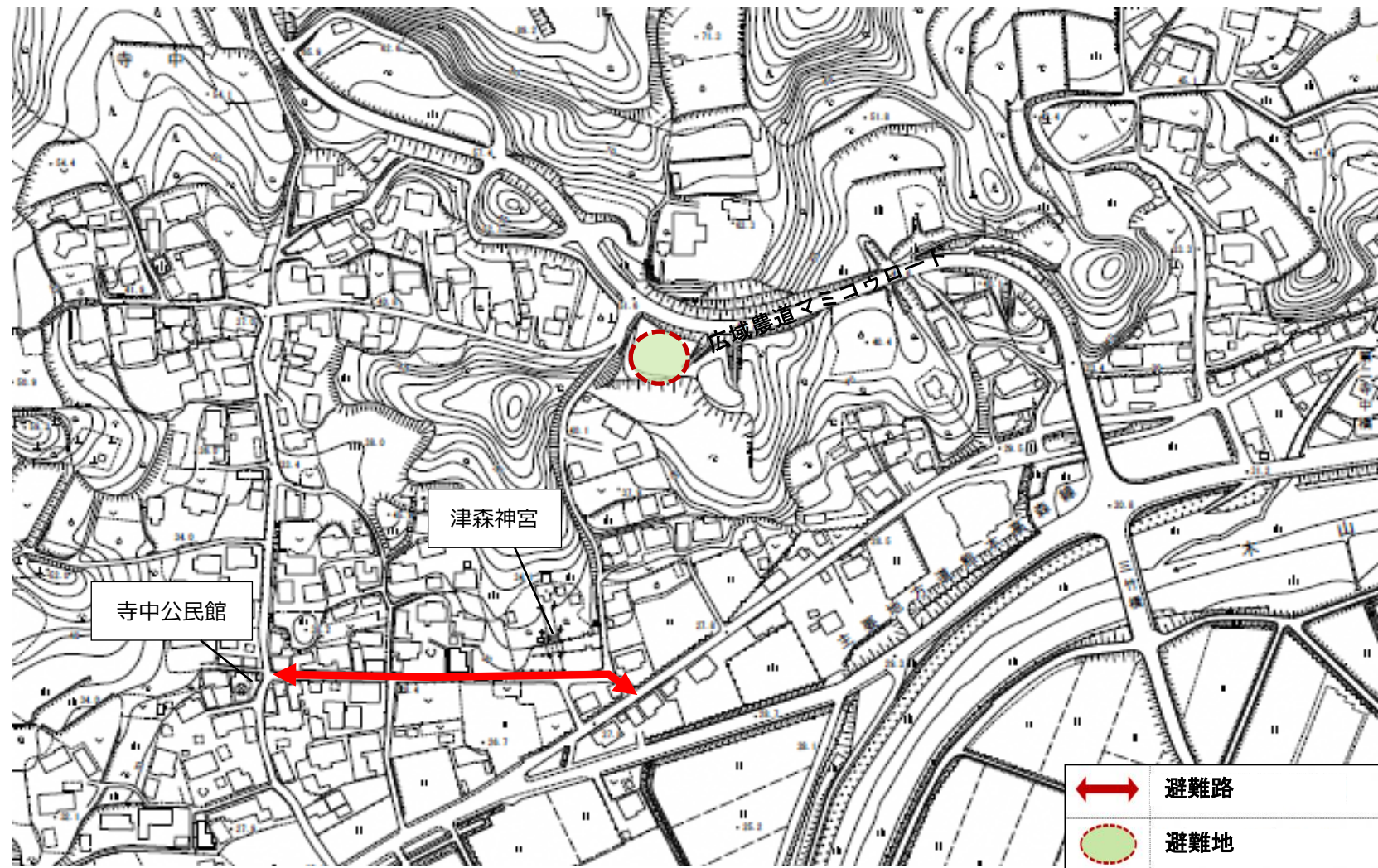


図 避難路・避難地計画図